

Japanese Red Cross Takayama Hospital

高山赤十字病院紀要

(第43号) 2019年



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

高山赤十字病院紀要 第43号

令和2年3月1日発行

発行 高山赤十字病院
〒506-8550 岐阜県高山市天満町3-11
電話 (0577) 32-1111(代)

印刷 中京コピー株式会社
〒461-0001
愛知県名古屋市東区泉三丁目30番3号
電話 (052) 931-2611

高山赤十字病院紀要

第43号

二〇二〇年三月

| | | |
|--|----------------------------|------------|
| 巻頭言 | 清島 満 | 1 |
| 臨床・症例検討 | | |
| 複雑深在性肝外傷後に遅発性仮性動脈瘤をきたした1例 | 桐山 俊弥・他 | 3 |
| Percutaneous transhepatic gallbladder (PTGB) ランデブー法により肝内胆管拡張を伴わない悪性胆管狭窄に対して経乳頭のス TENT 留置が可能となった2例 | 田口 大輔・他 | 9 |
| 飛騨地域における外傷性肝損傷の検討 | 間瀬 純一・他 | 16 |
| 内視鏡検査により早期診断したアメーバ腸炎の1例 | 伊藤 公大・他 | 20 |
| 頭頸部領域の非器質性疼痛に対するエスシタロプラムの早期効果発現作用機序の推測—第2報— | 大久保恒正・他 | 24 |
| The supposition of the mechanism of escitalopram makes a dopamine nerve activity rise by inhibiting corticotropin-releasing factor to the non-organic-pain | 大久保恒正・他 | 31 |
| Special Report | | |
| 研修報告書 | 黄 俊 | 35 |
| 剖検検討会報告(CPC) | | |
| 敗血症性ショックをきたした多発腸腰筋膿瘍の1例 | 水野 朋紀・他 | 38 |
| 胃癌術後6日目に心肺停止をきたした1例 | 神品 壮史・他 | 41 |
| 急性腎障害と右上葉肺結節を認めた好酸球性多発血管炎性肉芽種症の一例 | 坂口賢太郎・他 | 45 |
| 腫瘍随伴性RS3PE症候群が疑われた原発巣不明の多発肝転移の一例 | 釣 鯛 咲希・他 | 49 |
| 剖検記録 | 平成29年(2017年) 当院における病理解剖の現状 | 岡本 清尚・他 52 |
| 業績・他 | 各科業績記録 | 55 |

高山赤十字紀要
JRC Takayama Hosp

高山赤十字病院

CONTENTS

The supposition of the mechanism of escitalopram makes a dopamine nerve activity rise by inhibiting corticotropin-releasing factor to the non-organic-pain T.OHKUBO et al. 31

高山赤十字病院紀要 投稿規程

- I. 本誌は年1回発行し、高山赤十字病院職員および関係者の論文等を掲載する。
- II. 投稿論文は未発表のものとする。原稿の採否は編集委員会が決定する。
- III. 原稿
 1. word形式で、A4版用紙1枚に40字x40行の横書きで作成する。
 2. 原稿の第1枚目に、論文題名、著者名、所属、和文抄録(400字以内)、索引用語(5個以内)を記載し、本文は2枚目から始める。
 3. 英文タイトル、著者名、所属、英文抄録(200語以内)の用紙を添付することにはこだわらない。
 4. 各章の標題は、大項目をI、II、III・・・、中項目を1. 2. 3・・・、小項目を1)、2)、3)のように記載する。
 5. 論文の長さ、図・表・写真の枚数は、制限することがある。
 6. 提出にあたっては、印刷版と電子メディアの両方を提出する。
 7. 共同著者に名前を挙げる人には、必ず事前に承諾を得る。
- IV. 図・表
 1. 各々の図(写真)・表は番号・見出しを付けて、本文にも挿入箇所を指定する。
 2. 図(写真)は鮮明なものを使用する。
 3. カラー印刷は、実費を徴収する。
- V. 査読
 1. 論文は査読制とする。
 2. 査読は、編集委員会が委嘱する当院職員もしくは、それ以外の専門科2名の査読者により、論文の独創性、論述形式の妥当性を審査する。採否は査読者の審査に基づき、編集委員会が決定する。
 3. 文章表記等については編集方針に基づき、編集委員が加筆、訂正を行う場合がある。
- VI. 文献
 1. 主要文献のみ、原則として20個以内とする。
 2. 本文の引用箇所^{1) 2) 3)}のように肩番号をつけ、文末に一括して掲載順に記載する。
 3. 著者は2名までは併記し、それ以外は「他」「et. al.」と省略する。
 4. 雑誌は、著者名：論文題名、雑誌名 巻数：始頁—終頁、年号(西暦)の順に記載する。
欧文雑誌名の省略はPub Medに従う。和文雑誌名は原則として省略しない。
例：2) 橋本健一、柴田敏朗、他：低血糖脳症後に食行動異常が自制困難となった1型糖尿病の1例
糖尿病 52：291—294、2009
4) Yokoyama Y., Asano Y. et. al. : Familial Occurrence of Arteriovenous Malformation of the Brain
J Neurosurg 74：585—589, 1991
 5. 単行本は、著者：章の見出し、編者名、書名、版次、発行者、発行地(都市名)、発行年(西暦)、始頁—終頁の順に記載する。
例：5) 塩屋正道、安田一郎、他：膀胱癌に対するEUS-FNIによる腹腔神経叢ブロック、安田健治朗編、胆膵内視鏡診療の実際、日本メディカルセンター、東京、2009、227—232
 6. Webページは、サイト名、タイトル、URL、[アクセスした年月日]を記載する。
例：7) 日本小児科学会、インフルエンザ脳症ガイドライン <http://www.jpeds.or.jp/influenza/influenza090928.pdf>、
[accessed 2011年5月10日]